

## 「にいかわ案内人養成塾（魚津会場）」が開催される

### 企画観光部

富山湾・黒部峡谷・越中にいかわ観光圏協議会では、観光圏として如何に観光客を呼び込み地域の活力を向上させることが課題となっています。そのため、地域の魅力を発掘し、これを広く発信するとともに、訪れる観光客をもてなすため、地域の住民一人ひとりの参画と意識改革が求められています。

このため同協議会では、観光まちづくりを実現させるため、「住民みんなで観光ガイド」を合言葉に、1月30日に第1回養成塾を開催しました。

参加者は、各自治体関係者をはじめ、ボランティアガイド、タクシードライバーなど交通関係者、観光協会、宿泊関係者、農業及び漁業関係者など多方面から約150名の参加があり、関心の高さが伺えるものとなりました。



堀内会長挨拶（黒部市長）



川口コーディネーター



J R東日本 奥村課長

塾は、主催者側あいさつに続き、「地域の暮らしこそ旅の魅力」をテーマに講演とパネルディスカッションの二部構成で進められ、第一部では、川口直木コーディネーター（千葉商科大客員講師他）のレクチャーに続き、奥村聡子さん（JR東日本観光開発課長）から講演を頂きました。講演は、JR東日本が取り組んでいる「旅市」を通して、旅に対するニーズを踏まえ、従来のキャンペーンなど期間限定のものから通年型にレベルアップしていくことが重要であり、今後着地型旅行商品が益々魅力ある商品となるとして、地域がどう取組み、商品造りの仕組み、PRの重要性などについて具体的にお話を聞くことが出来ました。

第2部のパネルディスカッションは、川口コーディネーター、奥村講師、後藤靖子北陸信越運輸局長の3氏により進められ、後藤局長からは、観光が地域の活性化に寄与すること、地域には何も無いと言うが「何も無いアイデアがない（考えてないこと）証拠」である、地域の提案力が問わ



パネルディスカッション風景

れているなどの発言がありました。パネルディスカッションを通じて、地域の暮らしなど生活・文化を含め地域のふれあいをどう取り込んでいけるか、また、素材をどうブラッシュアップできるか。観光地としての魅力として、観光客にストレスを感じさせないことが重要であり、バス・タクシーなどの交通手段、案内標識も含め、決して観光関係者だけの問題ではなく、地域一人ひとりが当事者であり、如何にネットワーク通じて、地域の住民が当事者意識を醸成していくかが重要との指摘がありました。

養成塾では活発な意見交換が行われ、終了予定時間を15分も過ぎるほどの盛況ぶりでした。

次回は、2月20日（土）に富山県入善町を会場に開催されます。お時間のある方は是非参加されては如何でしょうか。



パネルディスカッション風景



後藤局長コメント

※【富山湾・黒部峡谷・越中にかわ観光圏】とは：富山県魚津市・滑川市・黒部市・入善町・朝日町の5市町を圏域として、行政、観光協会、富山県、農水商工団体、宿泊事業者、JR、私鉄、NPO等で協議会を構成。海と山の2つの滞在地区で、観光客数増大と長期滞在化（1泊2日→2泊3日）の推進を目指す。